卒業生からの便り

『Shiba-jo プラチナネットワークの設立、入会のお誘い』

小宮山　由起江（平成２年３月卒）

（清水建設(株)土木技術本部　基盤技術部　主査）

東京オリンピック、復興支援、多発する自然災害対応で多忙な毎日をお過ごしのこととお察しします。学生の皆様は将来を見据え日々勉学に精進されていることと思います。今回は「Shiba-jo プラチナネットワーク」についてお知らせします。

芝浦工業大学では今までの卒業生が約 10 万人。そのうち女子学生は約 3 千人。実に、女性比率は 3%。そこで少数者である女性教職員・卒業生・在学生がつながり、交流し、互いに支援し合うことを目的に、2014 年 6 月 2 日、「Shiba-jo プラチナネットワーク」が設立されました。芝浦工大 OG の山西陽子九州大学大学院工学研究院教授（当時、芝浦工大工学部准教授）が初代代表に、現在は池田歩芝浦工業大学大学院地域環境システム専攻博士(後期)課程 2 年が 2 代目代表を務めています。

2016 年 11 月現在、入会者数は教職員、卒業生、在学生計 113 名で、卒業生が 58 名と約半数。卒業生の多くは「後輩の女子学生の力になりたい」という動機で入会頂いています。私は発足時から幹事を引き受け、大学行事の都度数少ない OG に趣旨をお話しし、入会を検討頂いています。

「子育てで離職」「学生時の専攻と異なる仕事」で遠慮される OG もおられますが、皆様おひとりおひとりの生き方・考え方を参考にしたい後輩の学生さん・OG がいます。無理強いはしませんが、Shiba-jo プラチナネットワークに入会いただけませんか。交流会は都度開催、付属中・高受験の女子学生、親御さんへの助言も検討しています。もちろん懇親会も！多くの経歴の方々が可能な時にお手伝い・参加頂くがモットー、息の長い会を目指しています。

大学 HP「大学案内」→「男女共同参画推進」に「Shiba-jo プラチナネットワーク」があります。ひとりでも多くの方に入会いただき、お目にかかれますことを楽しみにしております。

～～～

◆JABEE 審査に合格（技術士１次試験の免除へ）

土木工学科では、2011年度入学生よりJABEE（日本技術者教育認定機構）認定に向けた教育プログラムを試行・開始しました。JABEEは、主に工学系の学科などの教育プログラムを対象に、そこで行われている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その教育成果が「技術者」として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していることを、審査、認定するための組織です。技術者教育プログラム認定（JABEE）の目的は教育の質を高め、わが国の国際的な同等性を確保することにあります。

本学科では、2011～2014年度に実施する教育フログラムの実績をもとに、2015年度にJABEE審査を受審し、審査に合格しました。2011年度入学生以降の学生は、国家資格である技術士1次試験の受験が免除され、技術士補の資格を取得することができます。なおJABEE制度では、卒業生の方から意見や評価をいただき教育プログラムの改善に役立てることが義務づけられています。

発行　芝浦土木卒業生の会（白亜会）事務局

〒135－8548　東京都江東区豊洲３－７－５　芝浦工業大学工学部土木工学科内

電話　03-5859-8400　FAX:03-5859-8401

http://www.db.shibaura-it.ac.jp/hakuakai.html

白　亜　通　信

NO.8　2017.3.15

会長あいさつ

第８期白亜会会長　　勝木　太

芝浦工業大学工学部土木工学科　教授（コンクリート構造研究室）

土木工学科卒業生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

1999 年 11 月に第 1 回土木卒業生の会・白亜会総会が開催され今回で 9 回目の総会となります。この間、幅広い年代層の卒業生にご協力いただき、就職における卒業生との連携、卒業生相互の交流、名簿事業等が行われました。これまで白亜会の基盤を築きあげてこられた白亜会役員の皆様に深く御礼申し上げるとともに、引き続き、ご協力を宜しくお願いいたします。

さて、東日本震災復興事業は平成 27 年度に 5 年間の「集中復興期間」を終え、平成 28 年度より「復興・創生期間」に移行しております。復旧・復興期間 10 年の「総仕上げ」として被災者の自立と地方創生を目指し多くの事業が行われています。また昨年の 9 月には熊本地震による家屋倒壊や斜面崩壊による落橋など多くの被害を受けました。私は熊本出身で兄夫婦と母が宇土に在住しており、震災の恐怖と家族への不安を抱いたことと、「熊本城」から沸き上がった砂煙にショックを受けたことを鮮明に覚えております。熊本地震の復旧・復興はまだ始まったばかりですが、多くの方からの支援と土木技術者の今後の活躍が期待されています。

また 2020 年の東京オリンピック開催に向けた事業が活発に行われていますが、一方では築地市場の豊洲移転問題もあり、活発化する建設市場において技術者倫理の重要性も再認識されます。このように、建設業界が果たす役割は今後さらに大きくなっていくことが予想されます。大学としても優秀な人材を輩出するための教育改革や人材育成に励むとともに、なお一層の卒業生との連携を強くしていかなければならないと考えています。そのためにも白亜会の活動を活性化させ、卒業生との交流を図っていきたいと思います。

なお、白亜会を持続的に活発化させるために、白亜会会長を 2 期までとし、学科教員で継続的に引き継ぐような提案をさせていただいております。白亜会設立当初と比べ、ご退職された先生も多く、現在、約半数の教員が入れ替わっております。そのため白亜会への学科教員の積極的な関与を促し、すべての学科教員の卒業生にご参加いただきたいと考えております。また今回は、記念講演会等を取りやめ、総会を前倒しし、総会後に卒業生相互で二次会を開催できるよう配慮させていただきました。第 7 回白亜会総会より出席者が大きく減少しており、白亜会を継続していくことが難しくなってきております。卒業生の皆様方のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

なお、第 9 回総会を 5 月 27 日（土）豊洲キャンパスで開催します。万障お繰り合わせの上、ご参加ください。5 月の総会で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

第９回白亜会総会のご案内と抜本的改革案について

第八期白亜会会長　勝木　太

2015 年 5 月 23 日に第 8 回白亜会を開催しました。第 9 回の白亜会総会・懇親会を以下の通り実施します。

【第 9 回白亜会総会のご案内】

日時：2017 年 5 月 27 日（土）

14：30-15：00　代議員　@　芝浦工大豊洲キャンパス

15：00-17：00　総会・懇親会　@芝浦工大豊洲キャンパス　交流棟 2F 生協食堂

参加費：

懇親会　　￥5,000

名簿購入　　￥3,000

寄附金（協力金）　￥2,000/1 口

＊これまで総会参加費として参加費＋名簿で 10,000 円を徴収しておりましたが、内容の見直しを行い減額しております。また参加できない方でも、名簿購入または協力金にご協力をお願いします。

振込先：ゆうちょ銀行　振込口座　　00120-6-630747

加入者　　芝浦土木卒業生の会

《次回の白亜会開催に向けた抜本的な改革案》

白亜会事業は、名簿の作成と総会・懇親会で実施してまいりました。ただし、そのご案内のダイレクトメールに大変な費用がかさみ、運営自体が困難になってきました。これまでに参加いただいている OB，OG には申し訳ない気持ちでいっぱいですが、第 10 回の開催が出来るかどうかの運営状況です。幹事会でも、白亜会の継続的開催を行っていきたいと白亜会のあり方を検討いたしました。

そこで、以下の改革案を代議会にお諮りし、承認されれば、次回以降はこの仕組みで継続していきたいと思います。ぜひとも、ご了承いただけますよう、よろしくお願いいたします。

【改革案】

- 白亜会ご案内のダイレクトメールの廃止
- 情報発信として白亜会ホームページおよび E-mail の活用
- 名簿事業は、個人情報の保護を鑑み住所等の項目を廃止し、卒業年・氏名・会社・E-mail アドレスとする
  （あわせて外注委託から学科管理への移行を実施したいと思います。）
- 協力金制度を設ける。
- 総会・懇親会内容を見直し、会費を低価格に設定して、参加しやすくする。
- 講演会を廃止し、総会・懇親会後に研究室の OB&OG 会や同期会などを開催できるように配慮する。
- 白亜会会長の任期を 2 年とし、学科教員が持ち回りとすることで、各研究室への参加活性化を狙う。

なにとぞ、ご理解の上、E-mail アドレスの登録をよろしくお願い致します。今回は、第 9 回白亜会総会の出欠登録と同時に、次回以降の連絡先登録をかねております。なにとぞ、登録のほどよろしくお願いします。

＊google サービスを利用しています。Google からの連絡が可能なように設定ください。

登録先の URL　および　QR コード

URL：https://goo.gl/CQEDaO

土木工学科３０年の追想

土木工学科教授　守田　優

芝浦工業大学に奉職して 30 年、2017 年度が土木工学科教員として最後の年になります。本学の土木工学科専任講師に就任したのが 1987 年、昭和 62 年、まだ昭和でした。この 30 年の世の中の移り変わり、本学の歩み、そして私の中の土木工学科について語ります。

芝浦工業大学に勤め始めた 80 年代の後半、世の中はバブルでした。一日の仕事を終え、大学の校舎から田町駅に向かって歩いていると、派手な衣装の女の子が駅から次々と向かってきます。「異様だ」と思いながらすれ違っていましたが、彼女らがディスコ「ジュリアナ東京」に向かっていたのを知ったのは、バブルが崩壊してから後でした。バブル経済期のなつかしい思い出です。

1980 年代後半、本学はまだ大学紛争の傷跡を引きずっており、当時の教授会の重厚で熱い議論は、新任教員として入ったばかりの私には別世界の雰囲気がありました。当時、本学は財政的にきわめて厳しい状況にあり、累積赤字 30 億円で、新しい教員を採用する余裕もほとんどありませんでした。私は、本学が久々にやっと採用することのできた教員ということで、そのとき 34 歳でしたが、工学部で一番若い教員として珍しがられました。

当時、芝浦工大は施設的にも豊かではありませんでした。老朽化した校舎で机を大事にリサイクルしながら使っていたのを憶えています。しかし、90 年代に入り、団塊ジュニアが大学進学期に入ると、学科の臨時定員増で大学の収入も増え、大学の中もなんとなく裕福になったような気がしました。

そのころ土木工学科という学科名称を変える大学が全国的に増えていました。土木という言葉のかわりに、環境、社会基盤、都市などの言葉を使い始めました。そんなころです。土木の教員みんなで合宿し、土木工学科の学科名称を検討する会議を持ちました。しかし会議では結局まとまらず、学生にアンケートをとることになりました。予想外でしたが、学生の間では、「土木」を変えない、という意見が大多数を占めました。私たちも「土木工学科」で行くことに決めました。いまや、全国で 1 桁、絶滅危惧種の「土木工学科」です。しかし、いま思えば、名称を変えないでよかったと思います。

2006 年、工学部は豊洲に移転しました。この豊洲移転によって本学は大きく変わりました。教育研究環境が近代的な設備になって大きく改善されたことは、学生にとっても教職員にとっても歓迎すべき変化でした。しかし、豊洲移転は、大学内の雰囲気も変えました。2000 年代の前半、少子化を背景にした本格的な大学サバイバルの時代を迎え、大学の運営も統治と合理性が強く求められ、以前のような、やや牧歌的な雰囲気は少しずつ消えていきました。豊洲前と豊洲後という言い方をしますが、豊洲移転を前後して工学部では教員の多くが入れ替わり、いまや豊洲後の教員が 7 割を超えているでしょうか。

21 世紀に入り、技術をめぐる環境は変化し、「世界で生産し、世界で消費する」グローバリゼーションが進展しています。土木の領域も、国内インフラの再構築とともに、海外市場への進出が不可避のものとなってきています。高度経済成長期、国内の産業インフラの整備から始まった日本の土木事業は、半世紀を経て、新たなフェーズに入ったと言えます。教育と研究において、このグローバリゼーションにどう立ち向かうか。芝浦工業大学の土木工学科も戦後日本の土木事業のこの転換期にどう対応するかを迫られていると思います。

2017 年度は、芝浦工大の土木教員として最後の年になりますが、30 年前には考えもしなかったことを、いま考えなければならなくなったことに慄然とします。